

霧島市「今週の一問」
小六国語 六月一日版
H二十六年鹿児島学習定着度調査問題から



1 松本さんが、ある日の新聞の記事について次のような疑問をもっています。

リード文

大型で非常に強い台風8号は8日、鹿児島県内を風速15級以上の強風域に巻き込みながら、沖縄の西海上を北上した。台風は次第に進路を東寄りに変え、県本土付近を通り過ぎる見込み。予報円の中心を進んだ場合、九州南部は10日午前にも風速25級以上の暴風域に入り、県本土に上陸の恐れがある。
(27面に関連記事)



松本さん

もしぼくが見出しを考えるならば、

8日鹿児島県を強風域に巻き込みながら北上

にするよ。だって、リード文でも、最初にそのことが説明されているものね。
でも、新聞社が作った見出しはそうではなかった。

あす県本土上陸恐れ

となっているんだ。
なぜ、リード文の最後に説明している内容を見出しにしたり、「児」
「島」「に」「の」の文字を省略したりしたんだろう。

あなたは、松本さんの疑問に対して、新聞社がこのような見出しにした意図(ねらい)をどのように説明しますか。あなたの考えを、次の条件にしたがって書きましょう。

【条件】

- ① 下の文章「ニュースを伝える」を参考にしながら、リード文の最後に説明している内容を見出しにした意図と、文字をしよう略した意図の両方について書きましょう。
- ② 百字以上、百二十字以内で書きましょう。最初の「ます」は空けません。また、途中で行を変えないようにしましょう。
- ③ 新聞社が作った見出しに用いられている言葉を「」（かぎ）を使って引用しながら、具体的に書きましょう。

新聞を広げてみよう。読者の目に飛びこんでくるのは、大きな活字の見出しである。

見出しは、そのニュースで伝えたいことの中心になる事がらを、ざぱり簡潔に表現したものだ。見出しを読めば、読者はニュースのポイントをつかむことができる。それだけではない。「この記事はぜひ読んでごらんなさい。」と、読者が身を乗り出してくるようにしむけるのも見出しである。だから、見出しの表現には、読者の興味をそそり、関心をよび起こすような工夫が必要だ。

(稲垣吉彦『ニュースを伝える』より抜粋)

A large grid for writing the answer, with a dashed border. At the bottom left, there are arrows pointing to the grid lines with the numbers '120 字' and '100 字'.

霧島市「今週の一問」
小六国語 六月一日版
H二十六年鹿児島学習定着度調査問題から



1 松本さんが、ある日の新聞の記事について次のような疑問をもっています。

2014(平成26)年 7.9日 水曜日
日曆6月13日 赤口

日	月	火	水	木	金	土	日
29	30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29	30
31	1	2					

発行所：(〒890-0000)鹿児島市下丁目通219番
南日本新聞社
電話 099-8138
鹿児島支社 099-8141
鹿児島支社 099-8142
鹿児島支社 099-8143
鹿児島支社 099-8144
鹿児島支社 099-8145
鹿児島支社 099-8146
鹿児島支社 099-8147
鹿児島支社 099-8148
鹿児島支社 099-8149
鹿児島支社 099-8150
鹿児島支社 099-8151
鹿児島支社 099-8152
鹿児島支社 099-8153
鹿児島支社 099-8154
鹿児島支社 099-8155
鹿児島支社 099-8156
鹿児島支社 099-8157
鹿児島支社 099-8158
鹿児島支社 099-8159
鹿児島支社 099-8160

台風8号

あす鹿児島本土上陸恐れ

暴風雨長時間継続か

大型で非常に強い台風8号が8日鹿児島県内を通過し、9日鹿児島県本土に上陸する恐れがある。鹿児島県内を通過する間は、暴風雨が続く可能性がある。鹿児島県内を通過する間は、暴風雨が続く可能性がある。鹿児島県内を通過する間は、暴風雨が続く可能性がある。

鹿児島県内を通過する間は、暴風雨が続く可能性がある。鹿児島県内を通過する間は、暴風雨が続く可能性がある。鹿児島県内を通過する間は、暴風雨が続く可能性がある。

リード文
大型で非常に強い台風8号は8日、鹿児島県内を風速15メートル以上の強風域に巻き込みながら、沖縄の西海上を北上した。台風は次第に進路を東寄りに変え、本土付近を通る見込み。予報円の中心を進んだ場合、九州南部は10日午前にも風速25メートル以上の暴風域に入り、本土に上陸の恐れがある。
(27面に関連記事)



松本さん

もしぼくが見出しを考えるならば、
8日鹿児島県を強風域に巻き込みながら北上
にするよ。だって、リード文でも、最初にそのことが説明されているものね。
でも、新聞社が作った見出しはそうではなかった。

あす鹿児島本土上陸恐れ

となっているんだ。
なぜ、リード文の最後に説明している内容を見出しにしたり、「児島」「に」「の」の文字を省略したりしたんだろう。

あなたは、松本さんの疑問に対して、新聞社がこのような見出しにした意図(ねらい)をどのように説明しますか。あなたの考えを、次の条件にしたがって書きましょう。

【条件】

- ④ 下の文章「ニュースを伝える」を参考にしながら、リード文の最後に説明している内容を見出しにした意図と、文字をしよう略した意図の両方について書きましょう。
- ⑤ 百字以上、百二十字以内で書きましょう。最初の「まずは空けません。また、途中で行を変えないようにしましょう。」
- ⑥ 新聞社が作った見出しに用いられている言葉を「」（かぎ）を使って引用しながら、具体的に書きましょう。

新聞を広げてみよう。読者の目に飛びこんでくるのは、大きな活字の見出しである。
見出しは、そのニュースで伝えたいことの中心になる事がらを、ざぱり簡潔に表現したものだ。見出しを読めば、読者はニュースのポイントをつかむことができる。それだけではない。「この記事はぜひ読んでごらん下さい。」と、読者が身を乗り出してくるようにしむけるのも見出しである。だから、見出しの表現には、読者の興味をそそり、関心をよび起こすような工夫が必要だ。
(稲垣吉彦『ニュースを伝える』より抜粋)

【例】

新聞社がリード文の最後に説明している内容を見出しにしたのは、台風がこれからどうなるのかということに、読者は関心を持っていると考えたからだと思います。文字をしよう略したのも、「あす」「鹿児島本土上陸」と、ざぱり簡潔に表現したかったからです。